

ピース・ウイング長崎 会報

へんりゃ

107号

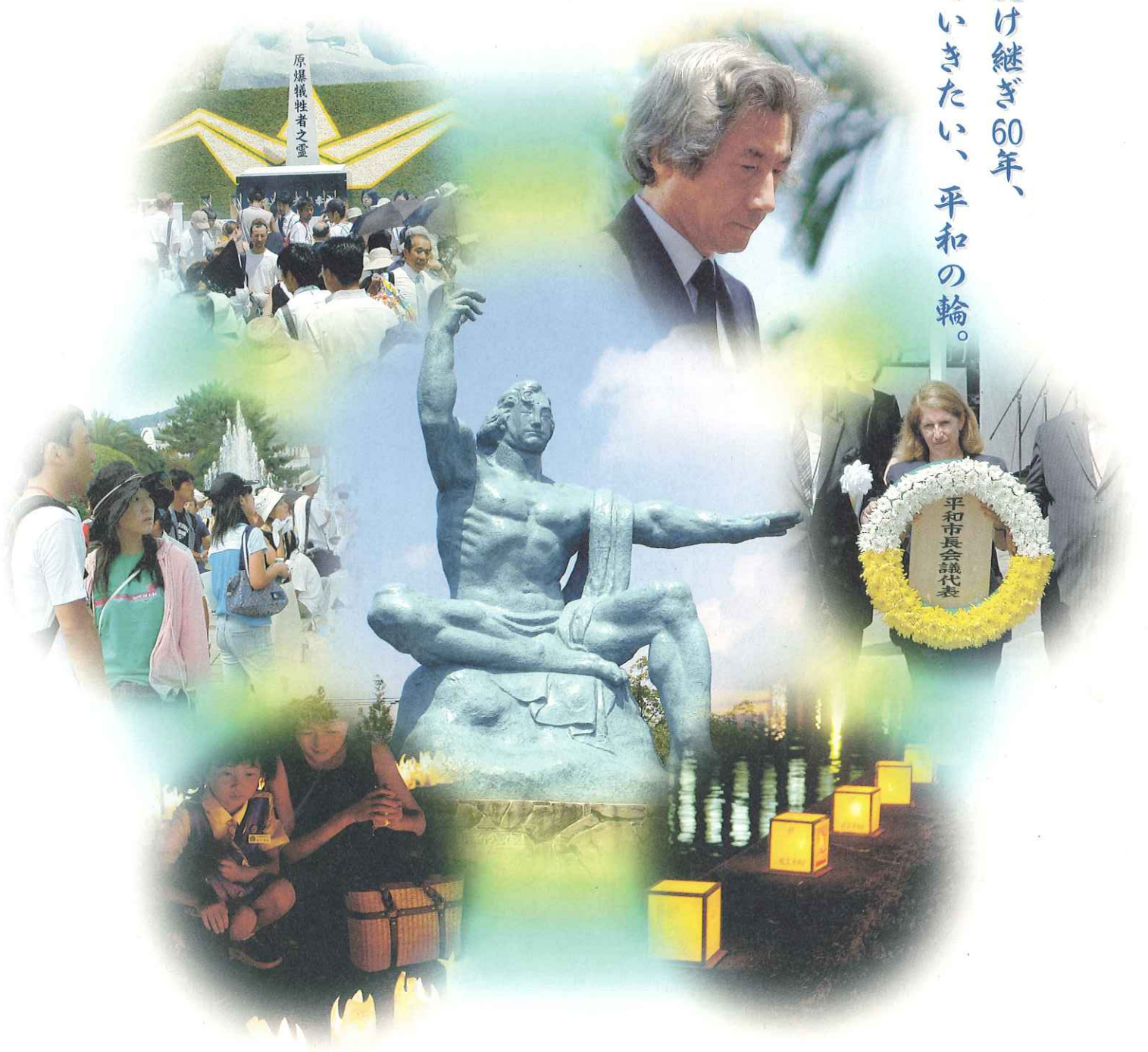
■財団法人長崎平和推進協会 〒852-8117 長崎市平野町7番8号 ■電話 (095) 844-9922 FAX (095) 814-0056
<http://www.peace-wing-n.or.jp>

- 被爆60周年記念事業を終えて
- アジア青年平和交流事業報告
- 利用者にも好評～平和案内人

- 最近のニュースから
- 平和宣言
- お知らせ

願いを受け継ぎ60年、
ひろげていきたい、平和の輪。

原爆犠牲者之霊



被爆60周年

記念事業を終えて

被爆60周年という節目の今年、本協会の継承部会や写真資料調査部会においても、記念行事開催の声が盛り上がり、継承部会では実行委員会も組織され、「電車が語るあの夏の日(レトロ電車)」と、「中学生による原爆と平和を継承する集い」を。また、写真資料調査部会では、「被爆前・被爆後のナガサキ原爆写真展」をそれぞれ開催しました。そして、これらの事業は、部会員の絶大な協力を得て、市民の話題ともなり、たいへん好評のうちに終了することができました。今回それぞれの代表である山脇・深堀の両氏に開催までの熱意や苦勞を語っていただきました。



実行委員会 委員長
山脇 佳朗

継承部会被爆60周年 記念事業開催

被爆60周年を迎える一年前の年、継承部会に所属する被爆者として、何か記念事業ができないものだろうかと部会員同士何回も協議を重ねてきました。

その結果、継承部会の各事業班から出された様々な案の中から記念事業として、浦上の街を、被爆者の話を聞きながら電車で行く「電車は語るあの夏の日(レトロ電車)」と、若者と被爆者が語り合う「中学生による原爆と平和を継承する集い」が決定されました。そして、そのための実行委員会が組織され私はその代表に就任しました。

以後は、継承部会員の献身的な力添えと事務局の強力なバックアップで、印



中学生シンポ

象に残る事業として開催し、無事終えることができました。支えてくださった皆様方に心からお礼を申し上げます。

「中学生の集い」(7月28日開催)は、長崎市の教育委員会や中学校の校長会を訪ねてこの事業への協力を要請することからスタートしました。丸田事務局長、小山総務課長、和田前部長、私というメンバーでお願いに回ったのですが、どちらからも快く協力してもらったことになりました。

そして、早々と16校から36名の参加申し込みを得ることができました。コーディネーターには、船山副理事長、グループリーダーには平和案内人としてすでに活動中の中川真裕子さん、水

下鮎美さん、白川美佳さん、増田圭衣子さん、増永智子さん、河野晋也さんの6名の方々にお願いができました。

「集い」は、平和祈念式典を前にした、7月28日(木)、中学生を六つのグループに分け、リーダーと

継承部会から選ばれた被爆者が1名ずつ加わり、テーブルを囲む形で進められました。

まず、「集い」の事業を準備段階から直接担当した継承部会員の恒成氏による基調講話があり、グループ別のミーティングに入りました。

若者の心理を良く理解したリーダーの進行と、継承部会の方々のアドバイスも加わって、どのグループでもそれぞれの中学校での活動の紹介や各自の平和への思いが述べられるなど、活発な意見交換が続けられました。

そして、おおよそ50分後グループ別に集約された内容が、出席者全員の前で順に披露されました。私は、自分が予想していた以上に中学校での平和学習は進んでいると感じました。船山副理事長が最後に、「中学生の皆さんは、今日の学習を通して、将来何をやるかじっくり考えてほしい」と締めくくりました。

「集い」終了後、私は「直接被爆した私たちは、毎年確実に欠けていく。だが、このような若者の集いは成果を累積しつつ発展させてほしい」と強く思いました。

「電車が語るあの夏の日(レトロ電車)」(8月2・3日開催)では、足場の悪い車内でどれだけ当時の街の様子や被爆の状況が話せるのかたいへん不安でした。何回かの話し合いの後、やっとナレーターを決め、事務局で用意していたビデオを見ながら、担当するコース順に話のトレーニングを始めたのですが、流れる画面はビルや商店ばかりで、おおよそ被爆映像とは縁遠いものでありました。

ナレーターの言葉も途切れがちで「本番でうまくいくのだろうか?」私は内心非常に不安でした。

しかし、本番の電車を走らせてのりハールになると、「語りべ」の本領が発揮され、実感溢れる話が続き「さすがだな」と私は感心しました。

もちろん、8月2日・3日の本番当日は熱のこもった話がリレーされ、ハンカチで涙をそっと拭かれるお母様もおられ、この事業の意義を確信した思いでした。



「レトロ電車」内で被爆者の話に聞き入る参加者



写真資料調査部会長
深堀 好敏

写真展を終えて

被爆60周年記念ナガサキ原爆写真展を、企画から1年半後の今年、8月6日から10日午前中まで、市民会館で開催し、224点の写真を展示しました。

開会に先立ち、私は部会構成員の平均年齢が76歳を超え、節目の年に行う大きな写真展としては今回が最後になるだろうとごあいさつを申し上げました。

約3,000枚の写真の中から224点を選び出す作業は、思った以上にたいへんであり心労を覚えたのは偽ざる事実です。写真の選定にあたっては、原爆被災が長崎市内の北部地域の出来事と受け取られている概念を改めてもらうという意味を込めて、稲佐対岸地区、中央部地区の被災写真を意識して取り上げました。

そのためか、来場者の中



には、「はじめて見た」また、「爆心地から離れた周辺地域の被害がこんなに大きいとは知らなかった」など、原爆の影響を見直す発言が多く聞かれました。

そのほか、展示期間が短いとお叱りも多く受けました。

さて、期間中私が最も期待し念願していた小・中・高校生の来場は意外なほど少なく残念でありました。

宣伝不足か、時期が悪かったのか。そんな中、諫早在住の方から、「妻は女学

就任あいさつ



継承部会長
安井 幸子

今年、私たちは被爆60周年という大きな時代の節目を迎えました。

60年前のあの日の悲惨な体験を糧に、私たち継承部会員は核兵器廃絶と世界恒久平和という究極の願いとともにこれまで歩み続けてまいりました。

しかしながら、60年の歳月は大きな時代の変化とともに、過ぎ去ったことへの関心を薄めており、被爆体験を継承する側である児童・生徒の意識も、継承部会が創設された22年前と比べるとずいぶん変わってきているというのが現状です。

また、平均年齢が74歳という部会員の高齢化は、被爆体験の継承活動そのものを危うくしている状況にあるということも事実です。

校時代報国隊として兵器工場で被爆。現在、痴呆症が進んでいるが写真には、興味を示すのでぜひ展示された兵器工場の写真を妻に見せてやりたい」というお手紙をいただきました。戦時中ご苦労をされた方々に、少しでもお役

に立つことができればという思いで、写真を手配し、ご回復を祈りながら私の暑い8月が終わろうとしています。入場者は延べ、2,250人にのほりました。ご協力いただいたすべての人にただただ感謝するのみです。

このような中、今年4月に第4代継承部会長としての任務を引き継ぐことになりました。

かねてより、私は被爆体験を語り続けながら、核兵器廃絶の思いを伝えていくにはどのようなすれば良いのか、ということが、残りの人生をかけて被爆体験を語り続ける継承部会員の大きな悩みであり、当協会の大きな課題であると強く感じていました。

そして、この課題の解決には、部会員皆様の、理解と協力が必要不可欠であり、お互いに活動の成果を報告し合い、継承の意義を高める以外にないのではないかと考えているところです。

若輩者の私ですが、これまで先輩諸氏が築いてこられた平和の理念を大切に守りながら、努力してまいります。

なにとぞ、ご指導とご提言のほどよろしくお願いいたします。

韓国訪問についての報告



河野 晋也

充実した6日間の、書ききれないほどの活動の中で、ここでは陝川原爆ホームでのエピソードを中心に私の報告をまとめた。

ホームでは日本の紙芝居、歌、おてだま等の遊具を用意して、交流をした。そこで、被爆されたある老婦人と話をしたときに、彼女は笑顔で「仲良く交流してください」と言われた。やさしい言葉だけれど、非常に重みがある。

戦中の日本に虐げられた人から、こういった言葉をかけられることに重さを感じてしまう。

また彼女は「過去を知るのは大切だが、若いあなたは未来のことも考えてください」と続けた。

戦中の日本の責任を問うことはなく、ただ、将来

の日韓関係を案じておられるようだった。彼女のその言葉は、若者の責任をやさしく、強く指摘しているように思う。

彼ら入居者は日本の行為を許せないだろう。だからといって、関係悪化を望む



わけではない。逆に、許せないからこそ「仲良く」と話されたのかもしれない。過去に縛られてばかりでは何も変わらず、逆に簡単に水に流してしまえば失敗をくり返す。老婦人のやさしさは、あなたに責任はないという意味ではなく、自分の世代での責任を考えなさいという厳しさを含んでいるのではないだろうか。

独立記念館でも、ガイドの方が話してくれた記念館の意味は「日本の批判だけでなく、これを見て未来のことを

に繋げて行ければと思います。参加しました。

私は長崎に生まれ育ち、祖父母・両親とも被爆者ですが、戦争・原爆・韓国については歴史で習っただけで、よく知りませんでした。

韓国の方を迎えるにあたり、歴史について話すことはもちろんですが、一人としてそれぞれ話をしてみたいと思いました。

長崎における主な活動は、韓国人青年と共に被爆者の方との交流や平和式典への参加。また、平和や原爆・日韓関係についても、県内外からたくさんの方々等が参加する青少年ピースフォー

ラムにおいて真剣に話し合いました。

被爆者の体験を聞いた時は「子供の頃は考えた事もなかった。自分の身近に起こったら…」と、お互い涙を止めることができませんでした。

韓国人青年も同様に涙を流し、言葉ではうまく表現できなかったようですが、感じるものがあつたのではないかと思います。

6日間という短い期間でしたが、有意義で楽しい時間を過ごすことができました。それは、お互いに相手を知ろうと考え、仲良くなりたいたいという気持ちが強くなったからだと思います。

考えてもらうこと」だという。彼女もまた、過去に縛られすぎることなく今と未来を考えており、「記念館の本当の意味を知ってもらう」という仕事にやりがいを見出していた。それが彼女なりの責任の果たし方なのだろう。

私たちは山を登り、街を歩き、夜遅くまで話し込むなど、様々な場所で貴重な体験をして、各自様々な感じてきた。この体験を生かそうと思えば、交流の本番はこれからという気がする。老婦人をはじめ多くの人に教わったことを実際にやってみよう。この13人での交流がどんな形になるのか、また楽しみである。

この事業に参加する前と、長崎に韓国青年を迎えた時とは、基本的に変わってはいませんが、理解し合うことにお互いが焦らないということ。これで終わりではなく、継続することが大事だと思えました。

この貴重な出会いを、この夏で終わらせないために、自分がどうするのか、どうしたいのか、考えていきたいと思えます。

「日本と韓国の相互理解のために私ができること」



中尾 三紀

今回、私がこの交流事業に参加したいと思った理由は、仕事を退職することになり、この機会に今まで経験の無いことに参加して精一杯やってみたいと考えたからです。

国と国の関係をどうにかすることは難しいですが、日本人として、一人の人間として関わり、理解を深め合い、平和への思いを共有できるような活動



利用者にも好評、平和案内人

資料館・被爆建造物等を案内するボランティア

高齢化した被爆者に代わり、被爆の実相を若い世代や観光客に伝えようと今年4月に活動を始めた「平和案内人」。現在の登録者数は56人で、その主な活動内容は原爆資料館やその周辺の被爆建造物の案内です。講座を終えた今も自分たちで研鑽を続けながら、積極的に取り組んでくださっています。

利用者の反響はとてよく、「今回案内人の人たちがしてくれました

に、自分たちも戦争の恐怖を後世に残していかなければならないと思う

(県立鳴滝高校3年生)」「とくに私は山王神社の大楠が心に残りました。ボランティアの人が『君たちもこの木のようにたくましく生きなさい』と書いていたのが心に残りました(福岡県宗像市立河東西小学校)」など、続々と感想が寄せられています。

現在育成中の45人の2期生は10月

末までの講座を終えた後、2か月間の自主研修期間を経て来年1月から活動をスタートします。被爆者の「想い」を繋いでいこうと、切磋琢磨しながら被爆の実相を学んでいます。

資料館ガイドは、資料館の開館日の原則午前・午後2人ずつ常駐し、来館者に声をかけて案内しているほか、事前予約も受けています。また被爆建造物等のガイドは、修学旅行生や、



地元の人たちに向けて実施しています。実施希望日の原則1週間前までに電話でお申し込みください。

(財)長崎平和推進協会
電話(095)844-9922

最近のニュースから

「原子力の平和利用」(9/22現在)

最近、イランと北朝鮮に関する話題の中で「原子力の平和利用」という言葉がよく聞かれます。平和利用といえば代表的なのが「原子力発電」です。我が国では現在、総発電量のうち4割近くを原子力に頼っています。では、なぜ「平和利用」が問題になっているのでしょうか?

★原発は核兵器製造の第一歩

我が国でも、かねてから原発問題には賛否両論があります。反対理由の第一は、原子炉を運転すると炉の中に長崎に落とされた原子爆弾の燃料として使われたプルトニウム239が副産物としてできることです。また、原発の燃料であるウラン235は天然ウランの中に0.7%しか含まれていないため、軽水炉原発の場合、その含有率を3~4%まで高めて(濃縮)使う必要があります。この含有率を90%以上まで濃縮すると広島型の核兵器の燃料になります。すなわち「原発を持つことは、核兵器製造の第一歩」というわけです。

★核不拡散条約(NPT)は平和利用を推進

ここで、NPTが関係してきます。この条約は、核兵器をもつ国が増えないようにする一方で、核兵器を持たない国に「原子力の平和利用の権利」を認めています。

そこで、原発を持つ国には、密かに使用済みの核燃料からプルトニウムを取り出したりウランを高濃縮しないように、国際原子力機関(IAEA)の査察(調査・視察)を受けることが義務づけられています。

★平和利用を隠れ蓑に核兵器開発か?

しかし、北朝鮮の場合、03年1月にNPTからの脱退を宣言し、今年2月には核兵器の保有を、5月には使用済み核燃料棒の取り出し完了を表明したこと。また、イランは18年間にわたってウラン濃縮やプルトニウム抽出実験などを秘密で続けていたことから、いずれも平和利用を隠れ蓑に核兵器の開発を行おうとしているのではないかとの疑いがあり、「平和利用の制限」が言われているのです。

パキスタンのカーン博士による「核の闇市場」やロシアの核兵器解体に伴う管理のずさんさなどから核兵器の拡散が進む恐れがあり、その防止は、今世界の大きな課題になっています。そのような中で「原子力の平和利用」も核兵器の開発に直結する問題として注目していく必要があります。

(永)

平和宣言

Peace Declaration

長崎市長

伊藤一長

今、被爆から60年を迎えた空に長崎の鐘の音が響きわたりました。

1945年8月9日午前11時2分、米軍機から投下された一発の原子爆弾は、この空で炸裂し、一瞬にして長崎のまちを破壊しました。死者7万4千人。負傷者7万5千人。何も分からないまま死んでいった人々。水を求めながら息絶えた人々。黒焦げになり泣くこともできないで目を閉じた幼子たち。かろうじて死を免れた人々も、心と身体に癒すことのできない深い傷を負い、今なお原爆後障害に苦しみ、死の恐怖に怯えています。

核保有国の指導者の皆さん。いかなる理由があっても核兵器は使われてはなりません。そのことを私たちは身をもって知っています。60年間、私たちは、「ノーモア・ヒロシマ」「ノーモア・ナガサキ」を訴えてきました。国際社会も、核実験の禁止や非核兵器地帯の創設に努力し、2000年には、核保有国も核兵器の廃絶を明確に約束したではありませんか。

それにもかかわらず、今年5月、国連本部で開かれた核不拡散条約再検討会議は、核兵器拡散の危機的状況にありながら、何の進展もなく閉幕しました。核保有国、中でもアメリカは、国際的な取り決めを無視し、核抑止力に固執する姿勢を変えようとはしませんでした。世界の人々の願いが踏みにじられたことに、私たちは強い憤りを覚えます。

アメリカ市民の皆さん。私たちはあなたがたが抱えている怒りと不安を知っています。9・11の同時多発テロによる恐怖の記憶を、今でも引きずっていることを。しかし、1万発もの核兵器を保有し、臨界前核実験を繰り返し、そのうえ新たな小型核兵器まで開発しようとする政府の政策が、ほんとうにあなたがたに平安をもたらすのでしょうか。私たちは、あなたがたの大多数が、心の中では核兵器廃絶を願っていることを知っています。同じ願いを持つ世界の人々と手を携え、核兵器のない平和な世界を、ともに目指そうではありませんか。

日本政府に求めます。わが国は、先の戦争を深く反省し、政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こらないようにすることを、決意したはずです。この憲法の平和理念を守り、被爆国として、核兵器を「持たない」「作らない」「持ち込ませない」とする非核三原則を、直ちに法制化するべきです。今、関係国が努力している朝鮮半島の非核化と、日本の非核三原則が結びつくことによって、北東アジアの非核兵器地帯化の道が開けます。「核の傘」に頼らない姿勢を示し、核兵器廃絶への指導的役割を果たしてください。

さらに日本政府に求めます。被爆者はすでに高齢に達しています。海外の被爆者にも十分な援護の手を差し伸べるとともに、被爆体験による心の傷がもとで苦しんでいる人たちの支援も充実してください。

長崎では、多くの若者が原爆や平和について学び、自ら活動に取り組んでいます。若い世代の皆さん。原子爆弾によって無念の死を遂げた人々に、深く思いを巡らせてください。一人ひとりが真摯に過去の歴史に学び、平和の大切さや命の尊さについて考えてみてください。長崎市民は、皆さんの平和への取り組みを支援します。世界の市民やNGOと手を結び、ともに平和の鐘を長崎の空から高らかに響かせようではありませんか。

被爆60周年を迎えた今、原子爆弾で亡くなられた方々の御霊の平安を祈り、私たちは、広島とともに、核兵器廃絶と世界恒久平和に向けて、決してあきらめることなく努力することを宣言します。

2005年（平成17年）8月9日



六〇年の想いが重なる
平和への願い、静かに…



【写真提供…長崎市広報課】



【碑巡り】

秋の原爆遺跡・碑巡りを開催します

継承部会 碑巡り事業班主催



原爆で破壊され消失した長崎駅付近、本蓮寺、福濟寺周辺を巡り、身元不明の遺骨2万体を収集し安置されている「非核非戦」の碑がある東本願寺から、立山防空壕跡をたずねます。どなたでも参加できますので、当日集合場所へお越しください。

開催日時 11月27日(日)
午前10時～12時

集合場所 長崎駅前・高架広場

参加費 無料・参加者には巡回周辺の資料を配布します。

案内 継承部会の碑巡り事業班が行います。

祈念館だより

遺影等登録申込者の 範囲を拡大しました

祈念館ではこれまで原爆死没者の氏名・遺影の登録について原則遺族の方からの申し込みしか受付けてきませんでした。今回以下の追悼を推進するため、今回以下のとおり申込者の範囲を拡大しました。

①死没者の被爆状況を把握し得る友人・知人等(本年8月～)
※遺族が確認できない場合。ただし、登録はできても非公開。

②死没者本人から生前に委任を受けた方(本年9月～)

※①②とも事情がわかるように報告書の添付を要します。
心当たりの方は、登録にご協力ください。

国連軍縮週

「市民のつどい」開催時に アジア青年平和交流事業報告会

本紙4面で紹介しましたように、韓国と日本の青年が相互理解を促進し平和を目指すため、8月に相互訪問し交流を深めました。その成果をインターネットで結び、両国の青年が報告します。

日時 10月29日(土)

午後1時30分～3時

場所 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館交流ラウンジ

屋外イベント

日時 10月29日(土)

午前10時～午後1時

場所 原爆資料館玄関前広場

内容 戦時食体験・環境にやさしい紙風船・折り鶴・わた菓子コーナー

問い合わせ (財)長崎平和推進協会
(☎844-9922)

原爆資料館 企画展示

第五福竜丸展を開催

1954年3月1日未明、遠洋マグロ延縄漁船、第五福竜丸は、太平洋マーシャル群島のビキニ環礁から160キロの公海上で、アメリカの水爆(ブラボ)実験により被災しました。

借り受け展示されますのでご紹介し
ます。

開催日時

平成17年10月4日(火)～

12月25日(日)

午前8時30分～午後5時30分

開催場所

長崎原爆資料館 企画展示室

長崎市平野町7-8

☎095-844-1231

入場料

原爆資料館の観覧料が必要です。

(大人200円・高校生以下100円)

〔共催〕長崎市財団法人第五福竜丸平和協会

本紙は再生紙を使用しています。

平成十七年十月十四日発行
印刷 株式会社 インテックス